

平成 17 年 10 月 11 日

各位

会社名 アンジェス MG 株式会社
代表者 代表取締役社長 山田 英
(コード番号 4563 東証マザーズ)
問い合わせ先 社長室 マネージャー
林 毅俊
電話番号 03-5730-2753

**大阪大学、アオキとアンジェス MG が共同開発
- マグネシウムを使った生体完全吸収性の次世代ステント開発に着手 -**

当社は、マグネシウムを使った生体完全吸収性の次世代ステントについて、大阪大学、株式会社アオキ(以下、アオキ)と共同開発に着手いたしましたのでお知らせ致します。

動脈硬化により生じる冠状動脈などの狭窄は、主にバルーンカテーテルを用いた血管拡張術により狭窄部位を広げる治療法が用いられています。しかしながら、この手法では、再度血管の詰まる再狭窄が生じるという欠点がありました。

このため、近年ではバルーン療法後に、血管内に留置固定される器具であるステントを用いることで、再狭窄を予防する治療法も取り入れられておりますが、それでも再狭窄率は 20-40%に留まっており、医療上の大きな問題となっております。

さらに最近では、この問題解決のために、免疫抑制剤や抗癌剤などを血管壁に放出し、急性期の炎症を抑制する薬剤放出ステントが考案され、臨床応用されております。薬剤放出ステントは、従来の金属単体のステントと比較して顕著に再狭窄率を低下させますが、ステンレス等の材料は永久植え込み型であるために、異物反応による慢性炎症を避けられません。また、薬剤によりステント表面の内皮化が遅れるために血栓形成が多いことも問題とされております。

こうした背景のなか、これらステントの素材に起因する問題を解決するため、生体吸収性材料を用いたステント及びそれをプラットフォームとした薬剤溶出型ステントの上市が望まれており、当社は、大阪大学、アオキと共同で、マグネシウム合金を用いた次世代ステントの開発に取り組むことになり、この度その開発に着手致しました。

本研究開発プロジェクトにおける役割分担については、各大学及び企業それぞれの強みを生かし、次の通りいたします。

大阪大学： マグネシウムステントの評価系としての動物実験の準備、解析

アオキ : ステントの材料であるマグネシウムの加工法の検討並びに試作

当社 : ステント形状のデザイン、NF B デコイオリゴの薬剤塗布条件の検討

なお、本研究開発プロジェクトは、経済産業省の平成 17 年度地域新生コンソーシアム研究開発事業のテーマ

に採択されており、大阪大学、アオキ及び当社が共同研究を行い、バイオ・サイト・キャピタル株式会社がプロジェクトの管理(管理法人)を行います。これにより、原則として2年間に渡って、助成金を受取る予定です。

- 用語の解説 -

1. NF B(nuclear factor-kappa B)

NF Bは、サイトカインや接着因子など免疫反応に関する遺伝子の発現を調節する役割をもつ転写因子です。NF Bがゲノム上の結合部位に結合すると、免疫反応に関する遺伝子が過剰に発現します。このため、NF Bは、免疫反応が原因となるアトピー性皮膚炎、乾癬や関節リウマチへの関与が指摘されています。

2. デコイ

遺伝子は、転写因子がゲノムに結合することで発現しますが、デコイは、そのゲノム上の転写因子結合部位と同じ配列を含む二重鎖の短い核酸で、体内に投与すると転写因子がゲノムに結合することを阻害して遺伝子の働きを抑えます。

3. NF B デコイオリゴ (NF- B decoy oligodeoxynucleotide)

NF B デコイオリゴは、NF B に対するデコイであり、当社では、アトピー性皮膚炎、乾癬や関節リウマチなど免疫反応を原因とする疾患の治療薬として開発しております。

会 社 概 要

株式会社アオキ(AOKI CO., Ltd.)

本 社：大阪府東大阪市高井田中5丁目7番3号

代表取締役社長：青木 豊彦

設 立：1979年11月

資 本 金：10百万円(2005年9月末現在)

従業員数：23名(2005年9月末現在)

売 上 高：230百万円(2004年9月期)

事業内容：航空機部品、精密機械加工部品、金型の製造

バイオ・サイト・キャピタル株式会社(Bio-Sight Capital, Inc.)

本 社：大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目7番15号

代表取締役社長：谷正之

設 立：2002年12月

資 本 金：32百万円(2004年12月末現在)

従業員数：4名(2004年12月末現在)

事業内容：投資事業組合の管理・運営事業、インキュベーション事業、研究施設の賃貸事業

以上